

## 体得しよう!

# 乳幼児の健康マネジメント

小さな子どもはちょっとしたことでも危険にさらされる。子育てはまさに「命を育むプロジェクト」なのだ!

## まずは「日々の健康づくり」から!

子どもは急に熱を出したり体調を崩したりする。しかしそく観察していると、その前にはいつもと比べて食が細かったとか、いつも以上に甘えてきたなど、「普段と違う」サインを出していることが多いと気づく。歯磨き、手洗い・うがい、食事、寝かしつけなど、毎日のお世話をパパの得意分野にして日々の健康観察を行い、ママとしっかり情報共有をすることで、病気のサインにいち早く気づけるようにしよう!

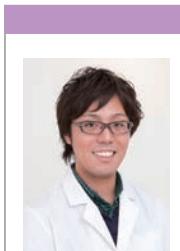
小児科を受診した際、問診にスムーズに答えることができれば、的確な診断にも役立つのだ。



## 「予防接種」と「健診」は、 パパのスケジュールにも組み込もう!

種類が多く接種の時期や間隔の管理が必要な予防接種。パズルのピースを埋めるように煩雑で難しいスケジュール管理は、ママだけに任せせずパパも積極的に参加したい。

病院や福祉保健センターで行う健診も、乳幼児の保健や医療の現場を知る絶好の機会。予めスケジュール帳に書き込んで、できる限り仕事を調整しよう。



講師  
**中村 守男**  
なかむら もりお

NPO法人こどもとくすり理事長。パパ薬剤師として小児医療の現場に立つ他、講演・執筆・企画も行う。

子どもの健康な毎日を守るために、まさかの事故を防ぐために父親が知っておくべきこととは? 新米パパから「信頼パパ」へ、いよいよ最後のミッションだ!

## 乳幼児によくある事故は「誤飲」

ハイハイなど動き始めた乳児や幼児に多いのが、誤って食べ物以外のものを飲んでしまうこと。たばこ、薬、洗剤、おもちゃなど身の回りにあるものが原因になることが多く、窒息や物によっては中毒症状を起こすことも。誤飲のリスクを防ぐために、赤ちゃんの手の届く範囲に置くものには注意しよう。



## 知っておこう! AEDの使い方

AEDは「自動体外式除細動器(Automated External Defibrillator)」の略。心肺蘇生を行なう際に使用する医療器具。救急隊員や医師が駆けつける前にAEDを使った心肺蘇生法を行なえば一命をとりとめる可能性が高くなる。いざという時のため講習会などに参加し使い方をマスターしよう。AEDは学校や図書館、駅など主要施設に設置されているので、置き場所についても要チェックだ。

AEDを用いた救急法などの講習会についてはこちら  
横浜市消防局 <http://www.city.yokohama.lg.jp/shobo/kousyu/>

## 子どもが病気、事故の時に! 夜間・休日医療電話相談

救急相談センター **# 7119** (携帯電話、PHS、プッシュ回線)または**045-232-7119** (全ての電話でご利用できます)

音声案内に従って番号を押すと、次のサービスにつながります。

**プッシュ1番**  
救急医療情報センター(医療機関案内)

その時受診可能な、医療機関案内を行います。  
(24時間・無休)

聴覚障害者専用ファックス 045-242-3808  
FAX受付後に医療機関と調整の上、折り返しいたします。

神奈川県医師会中毒情報相談室 **045-262-4199** 24時間年中無休

たばこ、洗剤、化粧品などの化学製品を誤って飲んだり、食べたりした時に、家庭での適切な対応方法や見守り方をアドバイスします。



講師  
**赤穂 貴之**  
あこう たかゆき

株式会社ワコーサル  
(救急救助特殊災害医療器材の専門商社)  
救急救助マネージャー。

携帯に  
登録して  
おこう!

